

Talk 対談

●日時／平成23年5月6日（金） ●場所／亀山市長室

「かめやま市民大学キラリ」が目指す思い

上野 まず、3.11東日本大震災で犠牲になられた方への哀悼の意を表したいと思います。今から6年前に多くの方々のご賛同を得て亀山で「かめやま環境市民大学」を創る事ができました。

環境だけでなく文化、健康、福祉も含めて総合的な市民大学に発展したいと思っていました。そのことは、櫻井市長のマニフェストとも合致しました。

このような背景のもとに、櫻井市長と林市民大学学長にかめやま環境市民大学の成果と課題、これからの発展について語っていただこうと思います。

まず、朴先生からかめやま環境市民大学が目指したことについてこれまでの話を聞いて、櫻井市長の方からこれからの「かめやま市民大学キラリ」が目指す思いを語って頂きたいと思います。

朴 ありがとうございます。亀山市は自然豊かで閑静をはじめとする、文化遺産の中で日常生活がおくれる、素晴らしい文化をもっています。亀山のよさをアピールしながら課題も解決できる、シンクタンクとしての、亀山市総合環境研究センターを7年前に創りました。私が考えている環境は、自然環境だけでなく、生活環境も含めた幅広い環境でした。つまりトータルで亀山を考えるためには、亀山の市民が主役となる、かめやま環境市民大学を創ることとなった訳です。7年

経ったかめやま環境市民大学には、延べ約730人が参加して頂きました。

かめやま環境市民大学を卒業した人々は、かめやま環境市民大学大学院へ進み、地域のリーダーとして活動しています。例えば今年4月にオープンした、亀山市森林公園の「やまびこ」は、環境をテーマとする大学院生が地域の住民と共に、話を重ねながら進めていました。また、去年の10月には国連生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が、名古屋で開催されたことから、櫻井市長の大変な配慮を得てアジアの7ヶ国、モンゴル、極東ロシア、中国、韓国、日本、タイ、インドネシアから200人の子供や若者、大人が一緒になって三重の生物多様性の保全について、真剣に考えることができました。亀山の加太小学校の子供達も一緒になって「COP10in三重」を実施し、亀山の里山公園「みちくさ」で里山環境学習を行いました。かめやま環境市民大学の関係者は、リーダーとして一緒に係りました。

また、亀山は世界保健機構(WHO)に加盟しての健康都市としてのメンバーシップになっていますので、健康・文化・環境の3本柱の市民大学に発展できますし、櫻井市長のトレードマークであるキラリを加えることで、これからの「かめやま市民大学キラリ」が発展的に進められるわけです。

上野 ありがとうございます。かめやま環境市民大学が、どのような思いで創られたかよくわかりました。これからの市民大学は、環境だけでなくさまざまな内容を影らませて、

市民が中心となって創っていきたくて考えています。そこで、櫻井市長としては「かめやま市民大学キラリ」をどのように考えておられるかについてお話し願えればと思います。

櫻井 まず、この7年間朴先生、上野先生のご尽力によってかめやま環境市民大学が夢でこられたのは、本当に意義があったと敬意と、感謝を申し上げたいと思っております。亀山が大きな時代の変化や環境の変化の中で、その変化にしっかりと適応して生きていける様な力を持たなくてはならないと思っております。その意味で亀山は歴史が織り成して、重なり合ってきたたざまいがあったり、緑豊かな自然があったり、更には折念の産業経済の活性化、高速交通網の整備の課題もあります。同時に特色のある、環境文化や教育のプログラムを持っています。

一方で世界基準の健康都市を目指す、都市戦略も動き始めています。街の課題は沢山ありますが、街を形作る市民や、地域や、都市の様々な用途が関係しあって、織り成して行く様な、高い結晶性を持った街を目指したいと考えております。亀山は人口5万という小さい街ですが、小さい街だからこそ、輝くクオリティを目指していきたいと思っております。ですから、環境を基軸に更に文化やライフスタイルに関わる部分も含め、更にバージョンアップしてこれまでのかめやま環境市民大学の成果を継承、発展していく事を強く願っております。キラリとは非常に抽象的な表現なんですけど、人口5万の小さい都市だけれど、高い融合性と結晶性を持ったまきにキラリと輝くオンリーワンのヒューマンウェアを「かめやま市民大学キラリ」を通じて、地域の課題解決、問題解決につながる場として発展いただけたらと願っております。

上野 ありがとうございます。櫻井市長のこの街にかけられる思いが伝わってきたお話でした。私は市民の為に、そして市民による市民大学であって欲しいと思います。わたしたちは市民が活動する場を提供できることが、市民大学の役割であると思います。そこにキラリと言う非常に明るいイメージを頂いたことは、わたしたちにとっても、大変心強く感じているのですが、櫻井市長のお話を伺って朴先生はどのように考えましたでしょうか。

朴 櫻井市長の考えと非常に通じるものがありまして、私と上野先生が7年前に亀山市総合環境研究センターを創る時の基本的なコンセプトは、「亀山学」でした。亀山学は、亀山に学び、共に考えて共に働いて共に創り上げるものです。そしてキラリと言う言葉でハッと目が覚めたと言うか、魂を頂いた気がします。キラリと輝く宝石の様な亀山のために、人材づくりの「かめやま市民大学キラリ」とパワーアップして頑張りたいと思っています。今まで育った延べ730人の人材をキラリと輝かせて主役に仕上げていきます。

また、次の世代を担う若い人材を作りたいと思いました。櫻井市長がおっしゃった人と人との繋がりを、ネットワークとして、見える化していきたいと思っています。環境と文

化、健康の3拍子揃ったテーマで、人材のスキルアップを計りたいと思います。今年は今まで実績があった環境において、くらしのアドバイザー資格が取れるカリキュラムを組んでいます。エコくらしが出来るように見える化出来る資格を取る事となります。さらに上級の資格取得に向けて勉強して頑張れる人材を1人でも多く養成します。「かめやま市民大学キラリ」の1つの目玉は、皆、簡単な資格から手に入れてだんだんレベルアップしていく仕組みを創ります。

上野 ありがとうございます。夢は大きいほうが良いですし、夢を実現する為の力になるのは市民の力だと思います。先程亀山市のパンフレットを見ていたのですが、街づくりにもキラリと書かれていました。櫻井市長の考えておられるキラリについてもう少し具体的に述べて頂いてよろしいでしょうか。

3つの要素があるキラリ

櫻井 わかりました。キラリと言うのは3つの要素があると思います。1つは就任以前もそうでしたが亀山の街の市民力、地域力です。例えば、地域のコミュニティには絆がしっかりと残っていたり、かめやま環境市民大学から学ばれた方が、リーダーになっている様な環境のアプローチをやってみるグループがたくさんおられます。これは自動に繋がる大切な部分です。

2つ目には持続可能性を、個々の市民のくらしの中で考えていくことです。この街はかつて女子師範学校が、今の亀山高校の場所にありました。亀山は教育の街と称された時代がありました。また、今でこそ幼稚園、保育園がありますが、大正の頃に県内には津に1つ幼稚園があってその次に亀山にありました。今の亀山幼稚園の前身になる幼稚園ですが、地元の篤志家が当時約1万円をご寄付され、役場が600円か700円を出してその幼稚園を建てております。それは当時から幼児教育の重要性に気付いていたか、師範学校があったことから、その理念を継承する責任として、次世代を育成していく責任があります。次世代への継承責任と言う持続可能性は産業にも環境、文化においても非常に重要な要素だと思います。

3つ目に健康（生活の質=クオリティオブライフ）の向上です。この街はゆったりと時間が流れていますので、ある意味スローライフと言えます。静と、持続可能性と、クオリティオブライフ（生活の質）と、この3つが相互に関連しあって、高い結晶性を持ってキラリと輝くこれが相乗効果を生み出して結晶の様に輝けばと言う思いでキラリとさせて頂いております。

上野 良く分かりました。3つの要素、つまり、地域の絆の持続可能性、生活の質は繋がっていくこと、ゆったりとした流れの中で人々が自分の生きる事の意義を考えたり、生活の場であったりします。これは都会には無い大きなメリットです。



亀山市長
櫻井 義之

亀山市総合環境研究センター
センター長
三重大学理事・副学長
朴 恵淑

亀山市総合環境研究センター
副センター長
放送大学
三重学習センター所長
上野 達彦